

旧ユーゴスラビア解体期におけるフットボールの平和的機能の有無と その発揮の条件についての研究

Research concerning the conditions surrounding football during the break down of
former Yugoslavia and whether or not soccer functioned as a peaceful sport during that time

1K03A113-0

白石 健一郎

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 石井昌幸先生

I 序章

オリンピックに代表されるように、スポーツには民族の壁を超えることができる平和的効果があると信じられている。しかし、じっさいのところ、スポーツがこのような理想を実現してきたとは必ずしも言いがたい。本論文では、スポーツの平和的効果を「民族間の偏見を取りのぞくこと」ということに限定して定義する。そして、解体前後のユーゴスラビアに焦点をあてて、フットボールが紛争地域において平和のために貢献することが可能か否か、また、どのような条件の上において発揮されるのか考えてみたい。

II 本論

(1) 旧ユーゴスラビアの歴史的背景とユーゴスラビア代表構成メンバーについて

ユーゴスラビアの紛争の歴史に触れる。旧ユーゴスラビアの建国の過程、民族主義の台頭の過程、セルビア・クロアチア戦争、ボスニア戦争、コソボの内戦について、解説する。このことにより、旧ユーゴスラビアにおいて、民族間の恨み、偏見がどれほど強いものなのか、ということへの理解を促す。

(2) 旧ユーゴ時代のフットボールがプレーヤーにもたらす平和的効果

まず、イタリアワールドカップ時の旧ユーゴスラビア代表(以下、代表チーム)において、スポーツの平和的効果は発揮されたのか、検証する。この際、代表チームや監督のそれぞれのチームメイトに対する言説をワールドカップ前、その最中、その後にかけて、収集する。その結果、代表チームにおいて、他民族のチームメイトへの偏見はほとんど存在しないことがわかった。

続いて、草の根多民族サッカー愛好者の集まりである、サラエヴォ・フットサル・プロジェクトについて、取り上げる。この事例についても、フットボ

ールは多民族間の協調に大きな役割を果たしているようである。これにより、代表チームという大きな使命を背負ったチームであっても、サラエヴォ・フットサル・プロジェクトのような草の根のチームであっても、旧ユーゴスラビアにおいて、フットボールを同じチームでプレーすることにより、平和的効果を期待できる、ということを検証した。

(3) 旧ユーゴ時代のフットボールがサポーターにもたらす平和的効果

(2)と同じように、サポーターの言説を収集し、(2)で得られたスポーツの平和的効果がサポーターに対しても働くのか検証する。残念ながら、サポーターにおいて、スポーツの平和的効果があるとは言いがたい。

(4) スポーツの平和的効果はどのような条件下で働くのか

(2),(3)から旧ユーゴスラビアにおいて、スポーツの平和的効果はプレーヤーにおいて有効だが、サポーターにおいては、有効ではないということを実証した。ここでは、その違いがどこから生じているものなのかを考察することにより、違いを明らかにする。プレーヤーにおいては自己達成感の共有によって、民族間の偏見を取り除けるという結論が得られた。また、スポーツを見る立場からすると、マスコミによる情報を通してスポーツを見るため、スポーツの平和的効果が得られにくい、という結論に達した。

III 結論

今まで見てきたことにより、ユーゴスラビアの事例において、フットボールは平和的効果を期待することが出来るが、それは純粋な形で政治的な視点を加えられないという条件下で効果的である、ということの本論文の結論とする。